

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1473000758
法人名	株式会社コスモス
事業所名	グループホーム樺
訪問調査日	令和4年11月1日
評価確定日	令和4年12月1日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和3年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473000758	事業の開始年月日	平成16年5月1日	
		指定年月日	平成28年5月1日	
法人名	株式会社 コスモス			
事業所名	グループホーム 樺			
所在地	( 242-0024 ) 神奈川県大和市福田1842番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和4年10月21日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員のモットーは「優しい声かけと優しい対応」です。最近では新型コロナウイルスの影響により地域行事への参加が困難な状況にあります。それでも心身の安定を目標としているため、屋内レクリエーションに力を入れております。ラジオ体操、塗り絵、貼り絵、トランプ等のカードゲーム、秋は屋内運動会でスイカ割り、豆運びなどの安全で楽しめるレクリエーションに取り組んでおります。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年11月1日	評価機関 評価決定日	令和4年12月1日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は株式会社コスモスの経営です。同法人は横浜市緑区にグループホーム1ヶ所、サービス高齢者住宅、大和市でグループホーム1ヶ所、コミュニティカフェを運営しています。ここ、「グループホーム 樺」は小田急線「高座渋谷」から徒歩10分程、「妻恋坂」を下った自然の残る静かな住宅地の一角にあります。少し上流には、地域の名所でもある「引地川千本桜」、かながわの花の名所百選に指定されている「常泉寺」もあります。

●ケアについては「優しい声かけと優しい対応」を基本方針とし、基本方針に沿ったケアを実践すべく「プラスの関わりとマイナスの関わり」を事務所内に掲示しています。ケアに入る時には、「①ゆっくり待つ②責めない・怒らない③たのしい雰囲気を作る④良いところを見つけてほめる⑤ありがたの気持ちを伝える」の5つの関わり方を、現場に入る前に確認してからケアに臨んでいます。管理者は入職時のオリエンテーションや会議の中で「利用者の感情」に着目し、利用者一人ひとりに向き合い、誠実な気持ちで接するように伝えていきます。

●コロナ禍により、思うように外出支援ができない状況下において、屋内レクリエーションに力を入れ、ラジオ体操・塗り絵・貼り絵・トランプなどのカードゲームや、秋には感染症対策を講じたうえで屋内運動会を開催し、スイカ割り、豆運びなどの安全で楽しめるレクリエーションに取り組んでいます。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 樺
ユニット名	ニリンソウ (2階)

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I 理念に基づく運営							
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に、三つの理念を掲げ共有している。また、プラスの関わりとマイナスの関わり現場に入る前に読み上げ、プラスの関わりに徹するよう努めている。	玄関に3項目からなる理念を掲示し、理念の共有については、入職時のオリエンテーションや会議の中で理念についてふれながら、職員への浸透を図っています。また、現場に入る前には、事務所内に掲示している「プラスの関わりとマイナスの関わり」に目を通し、プラスの関わり方を意識して、利用者のケアにあたっています。	今後の継続		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との付き合いは希薄になってしまっている。以前は参加していたコミセン祭りや盆踊り大会といった行事自体が中止になってしまっている。	コロナ禍で地域との付き合いは希薄になっていますが、以前は地域のコミュニティーセンターの祭り、盆踊り大会に参加するなどして地域との交流を図っていました。また、小学校に赴き、認知症の啓蒙活動も行っていましたが、コロナ禍もあり、現在は機会を設けることができていません。	今後の継続		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設当初から数年間は近隣の小学校に赴き、小学生に行っていたりしていたが、最近ではコロナ禍により、機会を作ること自体も自粛している。	/		/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこのコロナ禍により、内部での開催にとどまっている。	運営推進会議は書面で報告するかたちを取っており、メンバーの方々に事業所の現状や活動報告を行うに留まっていますが、気になることなどがあれば電話等で意見をいただくようにしています。	今後の継続		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍により、運営推進会議が外部の方を招いて開催できない状況が続いているため、以前に比べて積極的とは言えない状況が続いている。	大和市の担当者とは不明点や事業所で判断に迷う事案が生じた際に連絡し、助言や相談にのっていただきながら事業所運営を行っており、協力関係を築いています。また、神奈川県からPCR検査キッドや感染症対策に必要な物資を大和市への申請を介して支給していただいています。	今後の継続		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っている。一時性、非代替性、切迫性の要件をすべて満たしていないと身体拘束はできない事を常日頃職員に説明している。玄関は夜間帯以外施錠は行っていない。中扉はダイヤル式の施錠となっている。	身体拘束については、行わない方針であることを重要事項説明書にも明記しており、契約時に説明しています。職員へは、一時性・非代替性・切迫性における要件を満たしていない場合を除き禁止されていることを入職時や研修でも伝え、周知しています。玄関の施錠についても夜間を除き行わないとしていますが、離設防止の観点から、玄関に通じる中扉は施錠しています。	今後の継続	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	申し送り時、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、経済的虐待、性的虐待の具体例について設問している。また、虐待は加害者の虐待の認識の有無に関係なく対象になりうる事を説明している。	高齢者虐待防止については、マニュアルを整備し、入職時にも禁止されていることを伝えていきます。高齢者虐待防止に関する研修も行っており、身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト・経済的虐待・性的虐待について、事例を取り入れながら、職員への理解を深めています。また、申し送り時にも虐待につながるようなケアが行われていないか、確認しています。	今後の継続	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会は外部研修者で学ぶことがあったが、現在はコロナ禍もあり、機会を設けることができていない。感染が落ち着いてきたら、研修に参加していく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、不安や疑問点を毎回尋ねている。また、契約書の読み合わせも契約時に毎回行っている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して対応している。投函されることはほとんどないが、意見や要望は常に聞く姿勢をもって対応している。	重要事項説明書に明記している苦情相談窓口や第三者委員について契約時に説明している他、事業所内にも掲示し、家族に周知しています。また、事業所内にも意見箱を設置していますが、何かあれば電話や来訪時に管理者が話を聞くようにしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見は内容によって反映が難しい場合もあり、提案を聞く機会を全体で設けることは行っていない。しかし、個々に提案があった場合は内容によるが、反映する場合もある。	職員からの意見や提案は、申し送りやミーティング、業務や休憩時間など随時聴く機会を設けています。内容に応じて代表に報告し、意見を仰いだうえで職員に結果を伝えるようにしています。日常の業務やレクに関する意見は、ミーティングの議題にあげ、討議したうえで反映させるようにしています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月末の役員会議にて利用者の状況、職員の状況を報告している。勤務年数、勤務日数、勤務態度などを考慮し、パート職員であっても賞与に反映する形になっている。しかし、更なる条件の整備は必要と考えている。	管理者は、職員の出勤時など普段からコミュニケーションを取るよう心がけ、職員が意見・提案しやすい雰囲気作りに努めています。また、事業所内で上がった意見は、月末の役員会議にて報告し、結果を職員に伝えています。管理者は職員の勤務状況を把握し、希望休や有給休暇の取得を促すなど、ライフワークバランスにも配慮しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は南林間の施設を兼務しているため、管理者が職員のケアと力量の把握を行っている。外部研修に積極的に参加して行きたいと考えている。	管理者は、日々の業務や利用者との関わりを見ながら、職員の技量・能力の把握に努めています。事業所内での研修については、毎年年度初めに研修計画を立て、研修計画に基づき実施していますが、必要と判断した場合には、研修内容を変更したり、外部研修への参加を促すなどして、職員の資質向上を図っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在、コロナ禍により自粛している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。特に最初は環境の変化による認知症状の悪化を防ぐためにも十分に注意している。ご本人に聞けない場合は、ご家族にヒアリングを行い安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	多くの場合、ご本によりもご家族からの申し込みとなることから、ご家族が困っていること、ご本人の希望や要望にも十分に配慮しながら、施設にできないことを説明し、理解を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の進行具合、ご本人の性格、ご家族の状況等、支援していく上での必要な情報を収集し、どのようなサービスがご本人やご家族に有益なのかを職員とともに情報共有し、対応するよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状の見極めと心身の状態や、ご本人の性格によって「暮らしを共にする者同士の関係」築ける場合と築けない場合があるが、極力、利用者と職員という立場の違いが表立って出すぎず、かといって馴れ合いの関係にならないよう指導注意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。お手紙は毎月一か月様子を簡単にまとめ報告し、ケアプランの説明、通院の必要性があったときは、必ず連絡している。基本的には通院はご家族にお任せする方向だが、多くの場合通院支援の要望があったときは駐車場代以外無償で通院支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、ご家族以外の来訪には応じていない。しかし、ご家族の確認があり、施設側が必要と判断した場合は応じるようにしている。	現在はコロナ禍のため、家族以外の面会は遠慮していただいています。但し、家族からの要望や事業所が必要と判断した場合には面会を取り次ぐようにしています。感染症防止の観点から、家族が遠慮していることが多く、最近は面会も減ってきています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状に合わせ、関わりあえるよう支援している。また、一階と二階で認知症の進行具合による区分けはしておらず、空きが出た部屋に順次新入居者を案内している。どうしても合わない場合は、ユニット間での移動もご本人、ご家族の了解のもと行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。契約終了したのち経過フォローが必要な場合は稀だが、信頼の継続ができるよう努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。コロナ禍によりまとまったの外出支援はなるべく控えているが、マンツーマンでの外出支援は行っている。希望や要望が言葉に表現できないご利用者様に関しては、こちらから聞き出すなど、本人本位になるよう努めている。	入居前の面談時に本人、家族、介護支援専門員などから、過去の生活歴・既往歴・趣味嗜好について聞き取りを行いアセスメントシートを作成しています。現在はコロナ禍のため、外出に係わる要望に応えることは難しい状況ですが、人の出が多い時間や最小限の人数で対応するようにしています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしはもとより、幼少期などのエピソードも聞くようにしている。また、使い慣れた箸や食器類、家具等があれば持参していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。お手伝いができる方にはお願ひし、じっとしていることが好きな方には無理強いせず、力量に応じた対応に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週、計画作成者が介護職員に対しヒアリングしている。また、介護計画期間の満了前や介護計画の変更が必要になった場合にご家族に連絡を取り、介護計画作成に活かしている。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫くの期間は様子を見ながら情報を収集しながら、内容を更新しています。毎週、計画作成者が職員にヒヤリングを実施し、モニタリングを行っています。介護計画の更新時期は介護計画期間の満了前や状態変化が生じた際を目安に行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を記入し、気になる点や情報共有の必要性がある事案に関しては、業務日誌の申し送り欄に記し、見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれないように柔軟にサービスしていたが、このコロナ禍により制限されるものが多くなってしまった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては千本桜や高座渋谷駅周辺施設、若宮神社、引地川などがある。コロナ禍により回数は激減してしまったが、そういった場所に赴き、暮らしが楽しめるように支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。ほぼ毎週往診がある。一か月約4週を一階と二階交互に往診がある為、適切な医療や薬の調整は小まめできる状態にある。提携の薬局も即日薬を届けていただける。	基本的には、事業所のかかりつけ医から月2回の訪問診療を受診しています。入居前からのかかりつけ医を受診している方もおり、その場合は基本的に家族対応を原則としていますが、事業所で対応することもあります。歯科からは週1回、毎週月曜日訪問の歯科衛生士の報告を受けて、必要な方に往診があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。毎週月曜日と金曜日に、看護師の情報や気づきを得られている。受診に関しては管理者が通院支援を行う場合が多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。契約締結時に大まかな説明を行っている。また、状態変化した際に必要性に応じた説明をするよう取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期における指針、事業所で出来ること出来ないことについて説明し、同意書を取り交わしています。状態の変化に応じて主治医・家族との話し合いの場を設け、家族の意向を確認した後に、今後の方針を決めています。事業所で看取りを希望される場合は、大和ホームクリニックと連携しながら、終末期に向けた支援を行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員各自が応急手当の講習を受講できてはいない。しかし、急変の可能性がある場合や、対応の仕方については急変の可能性が低い場合でも行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍により災害時、地域の協力体制の話し合いに参加できていない。また水害時、火災時、地震時の避難方法は職員間で話し合っているが、避難訓練で全職員が避難方法を熟知熟練はできていない。	火災と地震を想定して、年2回の災害訓練を行っています。近くに引地川が流れていることから、水害を想定した訓練も考えています。災害時におけるマニュアル類は、消防署からのアドバイスを受けて作成しています。備蓄は、衛生用品は多めに用意し、懐中電灯やラジオも備えています。米や食糧は法人で確保しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。声掛けや言葉遣いにはプラスの関りマイナスの関りを職員に周知し、マイナスの関りをしないように指導している。	研修で「倫理規定」について学び理解を深めています。マイナスの関わり方（急がせる・手を出す・口を出す等）、プラスの関わり方（ゆったり・にっこり・見守る・少し待つ等）を事務所に掲示しており、現場に入る前に必ず確認し、関わり方を意識してケアに当たるよう、日頃から伝えています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。業務の都合や職員の都合が優先しないようにご利用様が自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは大事しているが、外出願望や、帰宅願望が強くあるご利用者様については全くではないが、なかなか希望に添えない支援となってしまうている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、身だしなみやオシャレが好きなご利用者様が少ない状況だが、支援している。特にクリスマスやお正月は支援するようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。特に盛り付けや片付けは積極的に参加してくださっている。複雑な作業等は職員が行っている。	朝・昼はメニュー付きで配食業者に発注して職員が調理し、夜はチルド食品を利用し、職員が利用者へのケアに当たる時間を大切にしています。時には、気分を変えて利用者の食べたい物を提供することもあります。できる方に片付けなどを手伝っていただき、残存能力の維持につなげています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給量や、食事摂取量は細かく管理把握している。現在は塩分制限が必要な方は不在だが軽い塩分制限程度なら対応可能。カリウム制限などは応相談。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。また、毎週月曜日に提携歯科の衛生士による口腔ケア口腔体操を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している場合でも、トイレでの排泄を促している。自立とまではいかないが、トイレで排泄できる意味を大事にして支援している。	排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄パターンと排泄状況の把握に努め、一人ひとりに応じた声かけと誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を心がけています。適度な歩行訓練や繊維食、水分摂取量の管理を行うことで便秘防止に努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に関しては、飲食物の工夫、体操、歩行、下剤の服用及び調整で対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員や施設側の都合により曜日が決まってしまうことがある。毎週日曜日が自由入浴日としていたが定着しなかった。希望や要望があった場合は臨機応変に対応していく方向となった。	基本的には週2回、平日午前中を基本として入浴支援を行っています。入浴拒否のある方には、声のかけ方や職員を代えながら入浴を促しています。安全かつ安心して入浴していただけるよう、入浴前にはバイタルチェックを行い、本人の希望を尊重しながら対応するようにしています。時には、気分転換に入浴剤や季節湯を行うこともあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。昼食後は昼夜逆転気味ではない方においてはお昼寝の時間を設けている。医師に依頼し睡眠導入剤の処方に頼る場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局と服薬管理を行っている。薬局側で一包化や日付、朝昼晩の区分けを行い、服薬チェック表は施設側、薬の作用副作用情報は、ユニットごとにひとまとめにして管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみごととしてのレクリエーションにつなげたいができていない。嗜好品や楽しみごと（カラオケ等）気分転換できる支援は行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍によりできていない。	以前は地域のコミュニティーセンターの祭り、盆踊り大会に参加するなどして地域との交流を図っていました。人の出が多い時間や最小限の人数で対応するようにしています。事業所から千本桜で有名な引地川も近く、天候や本人の体調を考慮しながら散歩にお連れしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持に関しては防犯の観点から行っていない。また、コロナ禍により以前のような買い物支援の回数はできなくなってしまっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙ともに行っているが積極的に行ってはいない。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけはレクリエーション活動の一環として行っている。また空調、居住スペースの整理整頓、清掃は小まめに行っている。	共用空間は床暖房も完備されています。季節感が感じられる様、季節に合わせた飾り付けを行っています。有線を利用し、ラジオ体操や誕生日の歌、唱歌や歌謡曲等場面に合わせて流しています。1、2階共にプロジェクターがあり、講習会で利用したり、貼り絵を貼ったりと活用しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に本人の意思を尊重しており、フロアで食事が基本だが、居室で食事したい場合はそのように応じている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にある程度心地よく過ごせるように工夫している。その後も心身の変化に応じて本人が過ごしやすいうようにお手伝いまたは支援している。	各居室の入り口には、花の写真と名前が書かれた表札が掛かっています。クローゼット・鏡付きの洗面台・ベッド・防災カーテンが備え付けとして設置されています。入居時に箆笥や仏壇、机と椅子、テレビやラジオ等の使い慣れた物・好みの物を持ち込んでいただき、居心地よく過ごしていただける空間となるよう支援しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ピック病などの訴えが多い認知症状の利用者の場合は自立した支援への病状による拒否がある為、難しい場合があるがそれ以外の場合は工夫して安全かつ自立できるように支援している。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム樺  
2階（ニリンソウ）

作成日

令和4年11月1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	「だめ」やなんでそんなことするの」等の否定的な言葉を使ってしまうケースが現在もある。	利用者の尊厳を大事にし、職員のストレスケアを考えた研修の仕方や実践方法を学ぶ。		
2	37	利用者様の希望の表出や自己決定の支援を働きかけれるスタッフの力量にばらつきがある。	スタッフの力量の底上げ。		
3	55	介護度や認知症の程度によって介護の手の数に差が出てしまうことに対して理解が乏しい利用者様への対応の仕方。	できることは行っていただき、できないところをお手伝いすることを職員、利用者が相互に理解すること。		
4	10	外部研修への参加	権利擁護、レクリエーション等、研修機会の充実		

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 樺
ユニット名	ハルニレ (1階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			○ 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に、三つの理念を掲げ共有している。また、プラスの関りとマイナスの関り現場に入る前に読み上げ、プラスの関りに徹するよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との付き合いは希薄になってしまっている。以前は参加していたコミセン祭りや盆踊り大会といった行事自体が中止になってしまっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設当初から数年間は近隣の小学校に赴き、小学生に行っていたりしていたが、最近ではコロナ禍により、機会を作ること自体も自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこのコロナ禍により、内部での開催にとどまっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍により、運営推進会議が外部の方を招いて開催できない状況が続いているため、以前に比べて積極的とは言えない状況が続いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っている。一時性、非代替性、切迫性の要件をすべて満たしていないと身体拘束はできない事を常日頃職員に説明している。玄関は夜間帯以外施錠は行っていない。中扉はダイヤル式の施錠となっている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り時、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、経済的虐待、性的虐待の具体例について設問している。また、虐待は加害者の虐待の認識の有無に関係なく対象になりうる事を説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会は外部研修煮て学ぶことがあったが、現在はコロナ禍もあり、機会を設けることができていない。感染が落ち着いてきたら、研修に参加していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、不安や疑問点を毎回尋ねている。また、契約書の読み合わせも契約時に毎回行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して対応している。投函されることはほとんどないが、意見や要望は常に聞く姿勢をもって対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見は内容によって反映がが難しい場合もあり、提案を聞く機会を全体で設けることは行っていない。しかし、個々に提案があった場合は内容によるが、反映する場合もある。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月末の役員会議にて利用者の状況、職員の状況を報告している。勤務年数、勤務日数、勤務態度などを考慮し、パート職員であっても賞与に反映する形になっている。しかし、更なる条件の整備は必要と考えている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は南林間の施設を兼務しているため、管理者が職員のケアと力量の把握を行っている。外部研修に積極的に参加して行きたいと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在、コロナ禍により自粛している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。特に最初は環境の変化による認知症状の悪化を防ぐためにも十分に注意している。ご本人に聞けない場合は、ご家族にヒアリングを行い安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	多くの場合、ご本によりもご家族からの申し込みとなることから、ご家族が困っていること、ご本人の希望や要望にも十分に配慮しながら、施設にできることできないことを説明し、理解を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の進行具合、ご本人の性格、ご家族の状況等、支援していく上での必要な情報を収集し、どういうサービスがご本人やご家族に有益なのかを職員とともに情報共有し、対応するよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状の見極めと心身の状態や、ご本人の性格によって「暮らしを共にする者同士の関係」築ける場合と築けない場合があるが、極力、利用者と職員という立場の違いが表立って出すぎず、かといって馴れ合いの関係にならないよう指導注意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。お手紙は毎月一か月の様子を簡単にまとめ報告し、ケアプランの説明、通院の必要性があったときは、必ず連絡している。基本的には通院はご家族にお任せする方向だが、多くの場合通院支援の要望があったときは駐車場代以外無償で通院支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、ご家族以外の来訪には応じていない。しかし、ご家族の確認があり、施設側が必要と判断した場合は応じるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状に合わせ、関わりあえるよう支援している。また、一階と二階で認知症の進行具合による区分けはしておらず、空きが出た部屋に順次新入居者を案内している。どうしても合わない場合は、ユニット間での移動もご本人、ご家族の了解のもと行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。契約終了したのち経過フォローが必要な場合は稀だが、信頼の継続ができるよう努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。コロナ禍によりまとまったの外出支援はなるべく控えているが、マンツーマンでの外出支援は行っている。希望や要望が言葉に表現できないご利用者様に関しては、こちらから聞き出すなど、本人本位になるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしはもとより、幼少期などのエピソードも聞くようにしている。また、使い慣れた箸や食器類、家具等があれば持参していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。お手伝いができる方にはお願いし、じっとしていることが好きな方には無理強いはせず、力量に応じた対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週、計画作成者が介護職員に対しヒアリングしている。また、介護計画期間の満了前や介護計画の変更が必要になった場合にご家族に連絡を取り、介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を記入し、気になる点や情報共有の必要性がある事案に関しては、業務日誌の申し送り欄に記し、見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれないように柔軟にサービスしていたが、このコロナ禍により制限されることが多くなってしまった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては千本桜や高座渋谷駅周辺施設、若宮神社、引地川などがある。コロナ禍により回数は激減してしまったが、そういった場所に赴き、暮らしが楽しめるように支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。ほぼ毎週往診がある。一か月約4週を一階と二階交互に往診がある為、適切な医療や薬の調整は小まめできる状態にある。提携の薬局も即日薬を届けていただける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。毎週月曜日と金曜日に、看護師の情報や気づきを得られている。受診に関しては管理者が通院支援を行う場合が多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。契約締結時に大まかな説明を行っている。また、状態変化した際に必要性に応じた説明をするよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員各自が応急手当の講習を受講できてはいない。しかし、急変の可能性がある場合や、対応の仕方については急変の可能性が低い場合でも行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍により災害時、地域の協力体制の話し合いに参加できていない。また水害時、火災時、地震時の避難方法は職員間で話し合っているが、避難訓練で全職員が避難方法を熟知熟練はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。声掛けや言葉遣いにはプラスの関りマイナスの関りを職員に周知し、マイナスの関りをしないように指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。業務の都合や職員の都合が優先しないようにご利用様が自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは大事しているが、外出願望や、帰宅願望が強くあるご利用者様については全くではないが、なかなか希望に添えない支援となってしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、身だしなみやオシャレが好きなご利用者様が少ない状況だが、支援している。特にクリスマスやお正月は支援するようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。特に盛り付けや片付けは積極的に参加して下さっている。複雑な作業等は職員が行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給量や、食事摂取量は細かく管理把握している。現在は塩分制限が必要な方は不在だが軽い塩分制限程度なら対応可能。カリウム制限などは応相談。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。また、毎週月曜日に提携歯科の衛生士による口腔ケア口腔体操を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している場合でも、トイレでの排泄を促している。自立とまではいかないが、トイレで排泄できる意味を大事にして支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に関しては、飲食物の工夫、体操、歩行、下剤の服用及び調整で対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員や施設側の都合により曜日が決まってしまう。毎週日曜日が自由入浴日としていたが定着しなかった。希望や要望があった場合は臨機応変に対応していく方向となった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。昼食後は昼夜逆転気味ではない方においてはお昼寝の時間を設けている。医師に依頼し睡眠導入剤の処方に頼る場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局と服薬管理を行っている。薬局側で一包化や日付、朝昼晩の区分けを行い、服薬チェック表は施設側、薬の作用副作用情報は、ユニットごとにひとまとめにして管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみごととしてのレクリエーションにつなげたいができていない。嗜好品や楽しみごと（カラオケ等）気分転換できる支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍によりできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持に関しては防犯の観点から行っていない。また、コロナ禍により以前のような買い物支援の回数はできなくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙ともに行っているが積極的に行ってはいない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけはレクリエーション活動の一環として行っている。また空調、居住スペースの整理整頓、清掃は小まめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に本人の意思を尊重しており、フロアで食事が基本だが、居室で食事したい場合はそのように応じている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にある程度心地よく過ごせるように工夫している。その後も心身の変化に応じて本人が過ごしやすいようにお手伝いまたは支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ピック病などの訴えが多い認知症状の利用者の場合は自立した支援への病状による拒否がある為、難しい場合があるがそれ以外の場合は工夫して安全かつ自立できるように支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム樺  
1階（ハルニレ）

作成日

令和4年11月1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	「だめ」やなんでそんなことするの」等の否定的な言葉を使ってしまうケースが現在もある。	利用者の尊厳を大事にし、職員のストレスケアを考えた研修の仕方や実践方法を学ぶ。		
2	37	利用者様の希望の表出や自己決定の支援を働きかけれるスタッフの力量にばらつきがある。	スタッフの力量の底上げ。		
3	55	介護度や認知症の程度によって介護の手の数に差が出てしまうことに対して理解が乏しい利用者様への対応の仕方。	できることは行っていただき、できないところをお手伝いすることを職員、利用者が相互に理解すること。		
4	10	外部研修への参加	権利擁護、レクリエーション等、研修機会の充実		

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。